

# 石高神社報

## 第十一号

発行日 平成五年十二月十五日  
発行者 石高神社 宮司 高原章兆  
発行所 岡山市円山八五三 石高神社

### 御寄進のお礼

#### と収支報告出口

昨年秋より末社稲荷神社等修理のための御寄進をお願い致しておりましたところ、皆様方のご理解とご協力により、目標額を上回る御寄進をいただきました。厚くお礼申し上げます。おかげをもちまして予定しておりました工事は四月末に無事終了し、支払いも済みましたので、ここに収支報告をさせていただきます。なにとぞ御了承の程よろしくお願い申し上げます。

#### 収入の部

- ・ 寄付金 三、七九、五〇〇円
  - ・ 正月銅板奉納金 一〇二、〇〇〇円
  - ・ 預金利子 一五、六三〇円
- 合 計 三、八七、一三〇円

#### 支出の部

- ・ 稲荷神社・荒神社の修理  
随神門一部修理 二、七五三、〇五円
  - ・ 表門西側灯籠の傾き修理 一三三、〇〇〇円
  - ・ 表参道玉垣応急修理 二五八、〇〇〇円
  - ・ 末社金磨宮社新調 四七、八五〇円
  - ・ 趣意書印刷・奉賀帳等事務用品 七、五〇〇円
  - ・ お礼の神拝詞
- 合 計 三、一九七、三五五円

#### 差し引き剰余金

六五九、七五五円

剰余金は今後の修理のために、修理特別会計として貯えておきます。なお、灯籠の傾き修理および玉垣の一部応急修理は旭光園（清水）、稲荷神社・荒神社・随神門一部修理は新東住建工業（円山）にお世話になりました。

また、新東住建工業より、末社木野山神社の社を奉納していただきました。

## 年中行事

### とんどやき

「とんど」または「とんど」などといい、正月十四日の晩または十五日の朝、お飾りおろしをした正月のお飾りやしめ縄を焚く行事です。この煙を浴びると風邪をひかないとか、残り火で焼いた餅を神棚にお供えしたのち食べると一年中病気にならないなどと言われています。

当社でも十五日の朝十時ごろから行っています。同時に古い御神札も焼却しますのでご持参ください。

## 末社紹介

日

### 金祐稲荷

境内の東南の自然石の石組みの上に鎮座しておられる末社で、沢田の恩徳寺にある最上位金祐宮をお祀りしています。恩徳寺は神仏混合のお寺で、境内には竪巖宮・金祐宮・七福神社などがあります。石高神社には、竪巖宮と金祐稲荷と二つの末社が勧誘されており、恩徳寺との関係の深さが推測されます。

なお、この社は木下勉氏(円山)の御協力により、昨年新調して新しくなりました。

## 境内の生物

### サカキ

少し趣きを変えて境内に見られる動植物について紹介することにします。

第一回目は神社に最も関係の深い木の榊を取り上げました。石高神社では、御本殿と幣殿との間や境内西側などに植えてあります。榊は関東以西の山に自生する日陰に育つ常緑の亜高木で、ツバキの仲間です。葉は厚くて光沢があり、枝先の芽は若葉に囲まれてまが玉状に曲がっています。五、六月には葉のつけねに淡緑色の小さい花をつけ、十一月ごろには紫黒色の実をつけます。榊のもとの意味はいつも緑が栄える木という意味のサカキで、常緑樹の総称でしたが、後に一本の木を定めて榊と称し、もっぱら神事に用いるようになったものです。榊のない地方では、他の常緑樹を用いています。

### 伝説 記

本年は大変お世話になりました。自然の恵みと祖先に感謝する心で、新年をお迎えしたいものです。

